資料３

（仮称）亀岡協働基金概要（案）

NPO の現状
①自己完結型
②発展志向型
③先進実施型

基金の対象

（仮称）**初めての寄附活用コース**（資金）＋寄附集め講座（非資金）

（仮称）**マッチングコース**（資金）＋人材支援（非資金）
※マッチング＝実施団体が集めた**寄附＋**同額の市からの**助成**
例）寄附 10 万円＋市助成 10 万円＝20 万円
【効果】NPO が資金集めを行う姿勢が構築できる

寄附募集の方法
・実施事業を明示して募集
・継続的に入る寄附の配分方法は今後協議

市助成財源確保の視点（検討）
・**１%支援制度の応用**
・**ふるさと納税活用**

寄附増額に向けての視点
【短期】
・公共施設の**自販機**
・**遺贈**
【長期】
・**寄附教育・文化**

運営体制　※体制検討の詳細は別紙参照
仕組みの構築、選考等の事務＝**（仮称）亀岡協働基金運営委員会**
事務局；立ち上げ時　亀岡市市民協働課
寄附の集まりとともに NPO 等へ移行
寄附金管理、税控除等の事務＝**（公財）京都地域創造基金**

基金との連動

・**円卓会議のような場の構築**
☆　個人では解決できない課題の持ち寄り
☆　解決に向けた取り組みが実施されていない課題の支援
⇒行政による支援が困難な領域を支えるための基金の活用

成果指標の見直し

アウトプットからアウトカムへ
・勉強会開催
（マッチング導入時にスタート）

アウトカム＝課題解決の効果・成果
例）交通事故の減少
アウトプット＝直接の成果物
例）歩道を 500m設置

補助金の交付を後出し型（投資型）にすることを検討　（5 年後を目処）
例）SIB（ソーシャル・インパクト・ボンド　イギリス）
SIB＝行政サービスを民間の NPO 等に委託。事業経費は投資により調達。事業が成果を挙げた場合にのみ、削減された行政コストに基づいた報酬を投資家に支払う仕組み

（仮称）亀岡協働基金運営体制（案）

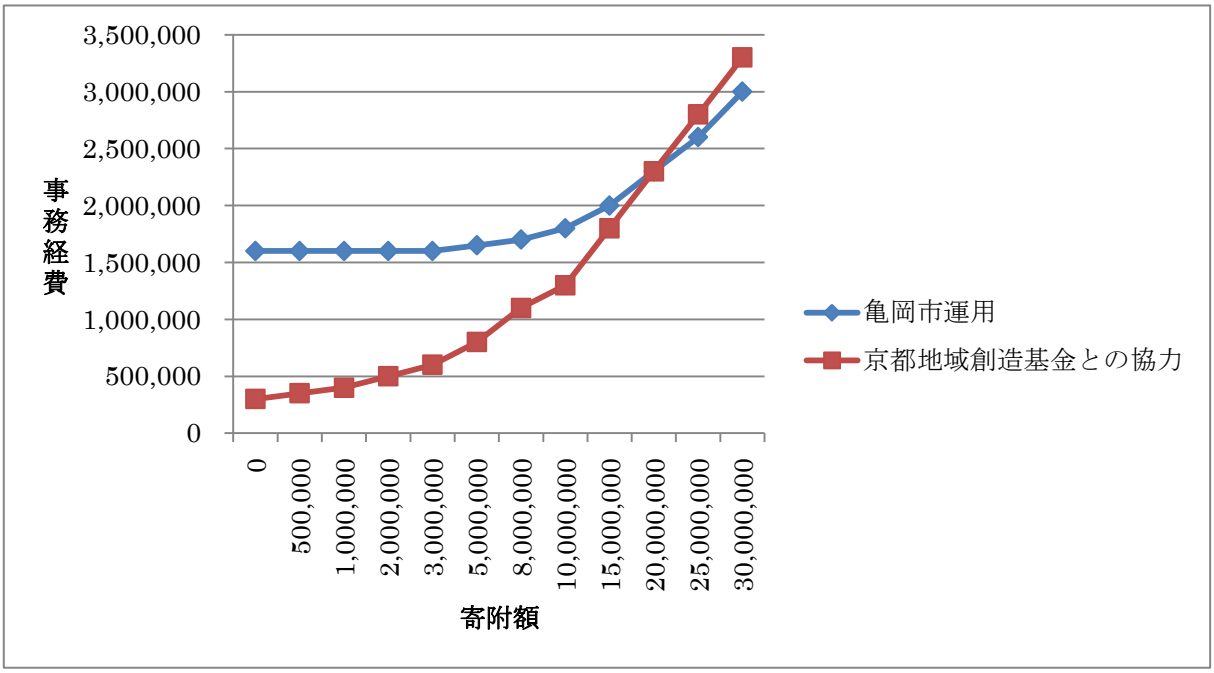
【概要】　基金の方向性、助成方針等を決定する運営委員会と金銭管理等を担う京都地域創造基金による運営を行う。

運営委員会の役割	（公財）京都地域創造基金の役割
・寄附獲得方法の検討 ・助成プログラムの検討・開発 ・助成要項等の検討 ・助成事業の選考　等	・寄附受付 ・寄附金管理 ・寄附者対応（税控除関連） ・助成金支払

※　運営委員会の構成　未定　構成案（市内関係団体、NPO、京都地域創造基金、亀岡市等）

※　運営委員会の事務　立ち上げ期は亀岡市市民協働課が担当。寄附受入額の増加とともに中間支援組織等に事務を移管（寄附受入額の目安等は今後の協議を経て明記）

【必要経費】　運営委員会経費+寄附金処理経費で年間 160 万円程度必要
⇒亀岡市単独よりも京都地域創造基金との分担の方が割安、効率的



※ 青線＝運営委員会＋金銭関係処理に要する人件費等
赤線=運営委員会に関する経費＋寄附額の 10%

（仮）亀岡協働基金創設・運用ロードマップ（案）

項目 ＼ 年次		平成27年度	平成28年度（上半期）	平成28年度（下半期）	平成29年度（上半期）	平成29年度（下半期）	平成30年度（上半期）	平成30年度（下半期）
		スタート期			整備期		充実期	
助成				初めての寄附活用コース助成実施			寄附集め講座開催	
					マッチングコース助成		人材派遣実施	
成果評価基準					勉強会実施	指標策定・試験実施	本格実施	
資金獲得	短中期		収入源確保					
			専門家向け研修			啓発・キャンペーン		
	長期				寄附教育・文化の仕組みづくり			
体制整備		運営体制検討・整備	運営体制移行準備			NPO等への運営体制移行		
		基金創設						
課題掘りおこし			制度検討		試験導入		本格導入	